

令和5年度 練馬区立学校の適正規模・適正配置検討委員会（第2回）	
開催日時	令和5年8月30日（水）10時00分～11時30分
開催場所	練馬区役所本庁舎19階 1906会議室
出席委員	13名
欠席委員	**委員
次第	1 開 会 2 委員委嘱・委員紹介 3 案 件 (1) 区立小・中学校の適正規模の考え方について (2) 区立小・中学校の通学距離の延長について (3) 今後の区立幼稚園について (4) その他
■ 要点記録	
(1) 区立小・中学校の適正規模の考え方について	
事務局	(資料説明)
三浦委員長	○ 現在の考え方を基本としつつ、変更すべき要素があればご意見をいただきたい。
枝村副委員長	○ 教員の人数は、国の基準に基づき学級数に応じて配置されるが、実情として苦慮している点があれば教えていただきたい。過小規模で教員の配置が少ないという部分でのデメリットはあるか。
三浦委員長	○ 学校の運営面でいかがか。
委員	○ 学校の大小に関わらず教務部や生活指導部、研究部などの校務分掌があり、教員が1人1役を担うが、過小規模となると教員の負担が増えたり、複数配置ができない場合がある。また、子どもの委員会活動、クラブ活動のバリエーションが少なくなるなど、中学校の部活動と同じような状況があり、この資料に書かれている課題は現在も変わっていない。 ○ 小学校でいうと、例えば22学級で英語の専科の先生が加配となる。本校は20学級だが、あと少しで加配になるのにと、過大になってでも加配が欲しいという思いが経営側としてはある。昨今、働き方改革についても議論されているため、加配の定数改善も進めてほしいと思う。
委員	○ 過小規模校になると、担任の配置に非常に困ることがある。本校は12学級で適正規模ではあるが、学年の担任の配置に苦慮している。単学級になればさらに苦勞するだろう。

枝村 副委員長	○ 苦勞されるというのは、例えばどのようなことか。
委員	○ 低・中・高それぞれで、学年を受け持てる先生とそうでない先生がいる。単学級であれば、例えばずっと高学年を担うことになり固定化してしまう。そういった課題がある。
枝村 副委員長	○ 単学級で学年に担任が1人となると、1人の負担が大きく、相談もなかなかできないというようなことを聞くが、実態としてそのような状況はあるか。
委員	○ ある。
三浦委員長	○ 中学校はいかがか。
委員	○ 中学は9教科あり、教員が足りない教科に関しては、講師や非常勤で対応している。特に専科の教員は需要と供給が合っておらず、技術や家庭は先生がいないため講師や非常勤を探すのも大変苦勞している。過小規模校は9教科のバランスが難しい。 ○ 近年、多様な生徒や保護者、また特別支援というか、特性を持った生徒が非常に多い。生活支援員だけでは対応できず、教員もつかなければならない状況がある。過小規模校になると、教員の数が少ないため、それだけ教員の負担が増える。 ○ 先ほどもあったが、分掌や部活動など、当然、大規模校と同じように仕事の分担があり、小規模校になると教員一人一人の負担がとて大きくなる。
(2) 区立小・中学校の通学距離の延長について	
事務局	(資料説明)
三浦委員長	○ 直線距離で小・中それぞれ1km、1.5kmが目安で、どの程度の延長であれば許容されるのか。また、他区の状況を見ると、半分以上の区が特段定めておらず、定めている中でも練馬区と同様がほとんどで、それより以上の区もあるという状況である。質問・意見があれば伺いたい。
枝村 副委員長	○ 基礎資料の資料7「区立学校の通学距離一覧」をご覧いただきたい。通学距離は本当に学校によりけりである。学区域も、大きい道路や鉄道、町会等の地域のつながりを考えたり、学校を中心にするのもなかなかできない。 ○ 学校では遠足や校外授業等で、子どもたちが歩くスピードをどの程度で見積もっているのか。先生方の経験を含め、もしあれば教えていただきたい。
委員	○ 低学年と高学年では差があるが、概ねこの資料の小学校1km17分は妥当ではないか。集団となればさらに時間がかかるため、子どもを引率する上では、時間を加えて積算するというのはある。
枝村 副委員長	○ 事務局の考えはいかがか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生の1km12分に関しては、大人と同じ程度で大差ないと考えている。小学生は判断が難しく、1年生と6年生では大きな差がある。私の子どもは登校班で通っていて、学校までの道のりが1.3kmあるが、22分程かかっている。1kmに置き換えると16.9分となるため、小学生1km17分というのは、悪い数字ではない。</li> <li>○ 一方で、根拠がなく区によっても差があるため、今後計画を作る上では、いずれかの小学校にお願いをして、登校班の通学時間を測ることも考えている。</li> </ul>
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ サンプルを増やすために、いずれかの学校にお願いすることも考えているということである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生の歩く速度については、資料のとおりで問題ないと考えている。通学距離に関して、中学校は部活動があり、特に冬は遅い時間になってしまうことがある。これ以上、距離が長くなると治安上の問題や近年の厳しい夏の暑さなど懸念が大きい。</li> <li>○ タブレット等が増えたことで、通学時の荷物が増え、各学校それぞれ工夫して対応している。通学距離が増えることに関しては、歩く距離やスピードだけでなく様々な点を配慮するべきである。</li> </ul>
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そもそも目安を決める必要があるのかという議論もある。実際に具体的な学校を検討するときは、通学の距離だけではなく、通学経路の安全性や荷物による負担なども考えなければならない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 23区で12区は定めがないとのことだが、定めがないことでのメリットやデメリットはあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定めを設けることで、子どもたちに過度な負担となるような統合が抑止される効果はあると思う。定めがないことのデメリットはあまりない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小・中学校それぞれの通学距離の規定は、統合・再編に関わってある種の理想として設定された。それが抑止力のような形に働くようになってきているという理解でいいのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そのとおりである。</li> </ul>
枝村副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 統廃合などの適正配置は、数に多寡はあるが23区で何もやっていない区はない。事務局が調べる中で、統廃合をした区でも、通学距離に関して何の検討もなかったという区はあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 例えば隣の中野区は非常に適正配置が進んでいる。20年ほど前から急激に子どもが減り、2つや3つの学校を1つにする統廃合を行っている。約20年前と比べると、小・中学校合わせて13校が減っているという状況である。資料にあるとおり中野区は通学距離の定めがない。そのため、通学距離は当然考慮しているが、最優先事項ではなく、子どもが減り単学級が増えて統廃合せざるを得ないといった状況であったようだ。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 徒歩圏内ということになると、やはりある程度の距離を設定するというのは妥当だと思う。中野区は面積が比較的コンパクトだが、練馬は広いため地理的な条件が必要ではないか。</li> <li>○ 資料に「現状として、最長距離は学校ごとにさまざまであり、現実に即した最長距離の見直しも検討」と記述があるが、この「現実に即した」というのは具体的にどういうものなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通学距離 1 km、1.5km という基準がある一方で、例えば小学校でいうと、A と C の学校で倍の差があるという現実がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実態とずれているということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そのとおりである。ただ、一律にするというのは現実的になかなか難しい。今、通学している子どもの現実を含めて見直しを検討しなければならない。</li> </ul>
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すでに基準を超えている子どももいて、現状に合わせてどのような基準にしたらいいかというのも 1 つある。</li> <li>○ 続いて、初めて扱う分野になるが (3) の「今後の幼稚園について」ということをお願いします。</li> </ul> <p style="text-align: center;">— 所用のため三浦委員長、**委員、**委員が退席 —</p>
(3) 今後の区立幼稚園について	
枝村副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ここからの進行は私が務める。これまで小・中学校ということで委員会を開催し、議論を重ねてきた。今回、初めて区立幼稚園について、皆様にご検討、ご意見をいただきたい。後ほど事務局から説明するが、資料 3 が教育長から皆様に対しての新しい諮問文である。なぜ追加の諮問をするに至ったのか、また幼稚園がどのような状況なのかということの説明するための資料が 6 である。</li> </ul>
事務局	(資料説明)
枝村副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料の内容など質問や意見を伺いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ **委員に実際の現場の状況や園児数が減っている中での課題など生の声を聞かせてほしい。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料のとおり、在園児数が減ってきている中で、支援が必要な子どもの人数は少しずつ増えている。また、他園から転園している子どもが一定数いる。例えば、私立幼稚園で3歳のときは子どもの数が少なく、副担任の先生がいたが、4歳からは担任の先生が1人で30人を見るから厳しくなると言われ、転園せざるを得なくなったという状況がある。また、3歳のときは集団にいられたが、周りの成長とともに様々な活動や園生活に参加できなくなり、区立幼稚園に転園するという例もある。</li> <li>○ 区立幼稚園は遊びを中心とした総合的な指導で個々に応じた保育をしており、それぞれの園の教育内容の特色や違いも保護者は見ているのではないか。</li> <li>○ 通園範囲について、私が練馬区に着任した平成12年頃は、概ね徒歩や自転車での登園が多かったが、今現在は本当に広範囲から登園している。車でなければ来られない、駐車場を借りてくるという場合の多くが支援の必要な子どもである。やはり近隣の子どもは3年保育の私立幼稚園か保育園に行っている。保育無償化になったところから、がくっと全体の人数が減っており、女性の社会進出や様々なところで子どもを受け入れようという動きから、今後さらに割合が高くなるのではないか。</li> </ul>
枝村 副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小・中学校と同じように、集団生活という前提はやはり必要ということか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そのとおりである。一人一人に応じた幼児期の教育も基本だが、やはり小学校に上がるための共同的な体験も重要である。様々な子どもがいる中で何とか工夫しながら保育をしているが、個別支援の子どもが増えると本来できていた経験ができないということが起きる。何とか園児数を増やしたいというのが正直なところである。そのためには、やはり3年保育が始まること、また例えばお仕事を幼児期は少しセーブし、預かりなどを利用して、通園させるという状態になるのが、子どもたちの教育のためにもいいと考える。</li> </ul>
枝村 副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中学校の先生方は、立場は違えども同じ教育に携わるということで、ご苦労を想像されるころはあるかと思う。資料の中で質問や意見はいかがか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料の右下の「練馬こども園」というのは、どのような内容か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私立幼稚園の一部で長時間の預かり保育や夏休みなどの預かりなどを実施している園を区独自で認定しているものである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼稚園終了後に6時や7時まで保育の延長をやるということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そのとおりである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以前、小学校にいた際、1年生を見ているとやはりその前の幼稚園、保育園での活動は非常に大切だと感じていた。</li> <li>○ 杉並区にいた頃は、区立の子ども園があり延長保育をしていた。当校の教職員からも、保育園の延長保育がなければ異動は難しいと言われている。例えば区立こども園の開園は考えていないのか。</li> </ul>

事務局	○ これまでに区立幼稚園の練馬こども園化も検討してきたが、現在の園児数が減っている状況や障害の子が増えている状況があり、区内を全体的に見て、今後の区立幼稚園について改めて考えていく必要があると考えている。その中で、練馬こども園の3年保育、預かり保育、こども園化というところを検討していきたい。
委員	○ 保護者のニーズを考えたときに、幼稚園教育と保育を併せた検討が必要であるため、他区の事例も情報収集しながら進めてほしい。
委員	○ コロナになる前に、区立幼稚園についても、練馬こども園化、長時間の預かり保育をやるという実施計画を立てた。コロナの影響があり先延ばしになったが、急速な少子化で出生率が80万人を切るという事態を受け、このまま練馬こども園化を進めていいのか、もう一度検証する必要があると考えている。 ○ 預かりの部分だけでなく、区立幼稚園に求められている障害児教育、また、健常児の子どもとのバランスをどうしていくのか。2年保育、3年保育など保護者ニーズに対してどのように対応していくのか。教員の配置など様々な課題があるため、総合的に考えていく必要がある。諮問にあるとおり適正規模というのはどんなものなのか、障害児数の割合も踏まえて検討しつつ、加えて、障害児保育、3年保育など多角的に、具体的に検討し今後の区立幼稚園の方向性を明らかにしていく必要があると考えている。
枝村 副委員長	○ 小・中学校に関しては、23区で多寡はありながらも少子化に対する全体の方向性としては、一定程度の適正配置、統廃合という流れがある。区立幼稚園は、各区それぞれの認識を持っているのか。例えば、他区においても園児数や障害児の受入れで苦慮しているのか情報はるか。
事務局	○ 区立幼稚園がない区がある。また、以前から区立幼稚園のあり方について検討していて統廃合を行っている区もある。やはり障害児の受入れは増えてきていて、どの区も課題であるということは聞いている。また、2年保育、3年保育など各区ばらつきがあるが、2年保育ではやはり充員率が低いという課題も各区共通で挙がっている。
枝村 副委員長	○ 現在の区立幼稚園には、検討しなければならない課題が多くある。この委員会で結論を出すということではなく、検討の必要性や考え方などについての意見を受け、今後、別の会議体などで検討を進めていくということによろしいか。
委員	○ 良い。